

委員会視察報告(1)

委員会視察報告

各常任・特別委員会及び議会運営委員会では、他団体等における先進的な取り組み内容について調査研究することを目的として、各所管事項における先進団体の行政視察を行っています。

これまで、紙面の制約から、視察日程・視察先、テーマなどの最小限の情報しかお知らせすることができませんでしたが、今後は、行政視察により得た貴重な情報をわかりやすくまとめ、特集記事として、この議会だよりを通じて報告をさせていただきます。本号では、平成20年4月以降に行いました各委員会の視察報告について掲載します。

企画総務委員会

日程・視察先
7月9日 三重県松阪市
7月10日 静岡県浜松市
参加議員数 10人
報告者 企画総務委員長
保谷 七緒美

三重県松阪市

「市税滞納催告を民間委託」平成17年に4町1市が合併して「新」松阪市が誕生した。その際、新たに総合行政情報システムを導入し、これまで各担当者が個別に管理してきた、課税と徴収に関する情報を一括して管理するようになった。

このシステムの導入により、滞納の経過の記録を紙ベースでつづらず、電子情報として管理するようになった。その効果は、業務の合理化を図ることができた、計画的に滞納金額や滞納者の傾向に合わせての滞納整理が可能になった、住民にとっても、一人ひとりの状況に合わせたサービスを受けることが出来るようになった、といったものがある。

さらに、電話催告システムを導入し、このシステムを平成20年5月から民間委託している。

静岡県浜松市

松阪市では、民間委託の前提として、滞納整理業務を抜本的に合理化する目的で、システムのグレードアップを図っている。民間委託できる条件づくりが、委託の効果を上げるために必要であることがわかった。

「債権管理条例による滞納管理」浜松市内の工場では外国人労働者が多く、制度の違いなどにより、外国人の滞納が増え、滞納者数の4分の1を占める。滞納対策が急務の課題となり、債権回収対策課が対策を進める中で、条例化の必要性が生じ、条例化するに至った。滞納と一口に言っても、市税、公課、その他の債権と3種類ある。それぞれについて、法律上の規定に従い、取り扱いは条例に明記した。これにより、担当が変わっても、対応が変わることなく、公平性を担保することができた。

また、給食費の未納についても、債権回収対策課と教育委員会、学校が連携することにより、学校代表者を対象に未納対策説明会を開くなどして、学校の負担感を減らし、滞納対策の強化を実現するなど、条例の制定と債権回収対策課の設置で、それなりの効果を上げていくとのことである。

ただし、それでも、徴収率の実績は西東京市より低く、もともとあった滞納状況が西東京市より相当深刻という事実が浮かび上がった。

文教厚生委員会

日程・視察先
6月26日 福岡県古賀市
6月27日 福岡県志免町
参加議員数 10人
報告者 文教厚生委員長
保谷 清子

福岡県古賀市

「粕屋北部在宅ネットワーク」は、安心・安全な医療を支援するため、患者の情報(病名、病歴、現状など)を「患者のかかりつけ医」と「患者が選択した2次病院」が共有し、ネットワーク化することで、緊急時に迅速で適正な緊急医療を確保するシステムである。在宅医療での急変時の入院対応について学びたいと視察に取り組んだ。

福岡東医療センター院長や粕屋医師会会長などにより、粕屋医師会主導のもとに行政の積極的なサポートを受け発足している。対象者は、ネットワーク登録医療機関をかりつけ医とする65歳以上の人である。2次病院では、以前は急患者の情報がなく、大きなリスクを負って対応していたが、このネットワークから情報を得られるようになり、適正な対応が取れるようになったとのことである。今後の医療行政の参考にしたい。



医療ネットワークの現場を視察(古賀市)

「子どもの権利条例について」志免町では、国連子どもの権利条約に基づく「志免町子どもの権利条例」が、平成19年度から施行されている。本市も「子どもの権利条例」を策定中のため、視察を行った。条例は、各条項ごとにやさしく解説した説明が添えられており、意義がよく理解できるよう工夫されていた。この条例の特徴としては、子どもの権利救済委員(相談・救済機関)、子どもの居場所、子どもの権利相談室が設置されている等の説明があった。

条例制定後は、子どもや大人、地域の事業者等が、「子どもの権利」への関心を深め、理解するための取り組みを行っているとのことであり、条例が実際に生かされることの大切さを学ぶことができた。本市の参考としたい。

福岡県志免町

京都府京都市

平成9年11月から、廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料(純度100%)を市のこみ収集車全車両220台で利用している。さらに平成12年4月からは、市バス約95台でバイオディーゼル燃料を20%の割合で軽油に混ぜた燃料を使用し運行しており、年間約4千tもの二酸化炭素排出を削減している。

廃食用油は、市民回収と飲食店からの有料回収にて処理されており、コストは1当たり85円程度。市民の回収率が上がればコストは下がる」とのことである。

2006年から2次病院の

「文化芸術条例の制定に向けた取り組み状況について」

古賀市では、市長が公約として掲げた「文化芸術のまちづくり」の実現のため条例の制定に取り組まれている。本市も、「文化芸術振興条例」を策定中であることから、視察を行った。

条例の説明と、「市民が自ら文化芸術に立ち上がることを目的と考えている」との市の姿勢が語られた。



廃食用油燃料化施設を視察(京都市)

本市で新たな施設を設けることは容易ではないが、バイオマスという新しい取り組みについて学べたことは、今後の検討に大いに参考となるものであった。

建設環境委員会

日程・視察先
7月1日 兵庫県神戸市
7月2日 京都府京都市
参加議員数 10人
報告者 建設環境委員長
桐山 ひとみ

兵庫県神戸市

「災害復興の先進事例について」視察した「人と防災未来センター」は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災の経験とその教訓を生かし、防災・減災の世界的拠点となることを目的に創設され、国の補助を受けて運営されている。さまざまな展示空間の中で、災害学習や防災教育、心の教育などが確立されるよう工夫され、来館される方ができるだけリアルな体験に基づいた資料や映像を体験することにより防災・減災意識が向上

するよう施設となっている。「1・17シアター」は、四方のスクリーンに再現される当時の凄まじい状況と音が印象的で、瞬時に対応できない状況を改めて知ることができた。震災の恐ろしさを体験できる貴重な映像空間であった。このほかにも多くの貴重な資料が展示され、また、語り部の方々より震災の体験が語り継がれていた。

本市においても市民の防災・減災意識を高めるとともに、危機管理体制の強化と市民と行政とのネットワークが必要であると痛感した視察であった。